

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2875101566		
法人名	医療法人敬愛会		
事業所名	ポートピアシルバーホーム		
所在地	神戸市中央区港島中町5-2-3		
自己評価作成日	令和5年9月28日	評価結果市町村受理日	令和5年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	令和5年11月2日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

1ユニットで、入居者はゆったりとした空間で過ごせます。入居者とスタッフが深くかかわれる時間や空間づくりに日々努めており、入居者が落ち着いた雰囲気の中で、個別にあるいは共同で日常生活を楽しめる工夫をしています。また、併設施設での行事への参加やお出かけ、お食事会やお料理会の企画といった日常との気分転換にも力を入れています。  
併設の介護老人保健施設と医療連携など法人として合同の取り組みが行われ、認知症専門棟もあり、相談しやすい関係となっています。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

目の前に大きな公園があり、建物周りは花や実のなる木々、畑があり、居室から青空や木々を眺め季節の移り変わりを実感できる心地よい住環境になっている。隣接する施設と併せ医療法人が経営しているので医療連携の面で安心感がある。近くのホテルで非日常的な雰囲気が味わえるお茶会や食事会などを行っていたが、感染防止のため取りやめている。代わりに散歩やドライブなどで外出機会を増やしたり、ささみと紫蘇の天ぷらといった手間がかかり敬遠しがちなメニューに取り組み、喜んでもらいたい、楽しんでもらいたい、生活を豊かにとの職員の気持ちが感じられる。コロナ禍以前はボランティアが訪れイベントを開催するなど地域交流が盛んだった。最近になって近隣大学の看護実習生やトライやるウィークの中学生の受入れなど徐々に交流活動を復活している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

ポートピアシルバーホーム

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し、理念に基づいた援助ができていないかを見直し、常に意識できるように心掛けています。	事業所独自の経営理念と、職員と一緒に決めた「報告・連絡・相談の徹底」など三箇条の年度目標を常に意識できるようミーティング場所に掲示し、年初などの節目節目で職員相互に確認しあい、共有と実践を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染防止のため、地域住民とのかかわりは控えているものの、併設の老健とは連携し、施設内イベントに参加しています。また、近隣の大学の看護実習生を受け入れて交流を図っています。	コロナ禍以前は婦人会や大学などからボランティアが来て併設の介護老人保健施設等と共同イベントを開催するなど地域との交流は盛んだったが、感染防止の為に全て控えてきた。今年度は大学の看護実習生やトライやるウィークの生徒の受入れを復活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ発生以前は、地域への外出機会を設け、地域の中で認知症の方が生活していけるように心掛けています。また、同法人のあんしんすこやかセンター職員が地域の方々に認知症に対しての理解を促しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日ごとの生活状況を報告するとともに参加者で意見交換を行い、その内容を事業所内の職員全員で共有し、援助や業務に行かせるよう取り組んでいます。	運営推進会議は入居者、地域住民、地域包括支援センター職員などの出席を得て隔月開催していたが、コロナ禍となってから対面での開催は中止し、メール等で意見を頂いていた。今年9月に対面開催を再開し、久しぶりに活発な意見交換を行なった。	運営推進会議のメンバーの中で以前は居た「知見を有する者」が空席となっています。対面開催の再開に伴い、地域の他事業所等からの参加を検討されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	神戸市中央区のグループホーム連絡会等に参加し、疑問点や問題点の解決及び事業所間の情報共有・情報交換に努めています。また、あんしんすこやかセンターと密な報告・連絡・相談を行っています。	市役所とは必要に応じて適宜連絡・相談を行っている。区のグループホーム連絡会にも参加している。地域包括支援センターとは併設の介護老人保健施設とともに月1回会議を開いており、イベント等の情報交換や入居相談の紹介など密接な連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則行わない方針を全スタッフに周知し、困難事例であっても安易に身体拘束を行わないようにしています。また、毎月の身体拘束廃止委員会に出席し、各部署と連携し、情報共有と情報交換を行っています。	併設施設と合同で、現場職員も参加する身体拘束廃止委員会を毎月開催するとともに職員研修も年2回行って、身体拘束のないケアに努めている。家族に了承を頂いてセンサーマットと離床センサーを使う方が1人ずついるが、毎月必要性を見直している。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	老健と合同で毎月の虐待防止委員会に出席し、不適切なケアを行うことがないように取り組んでいます。また、全職員に高齢者虐待防止の研修を行っています。	グループワークも行う年2回の職員研修と、毎月の虐待防止委員会を開催している。職員に不適切な言動があれば、個別に指導しミーティング等で共有している。職員の心の健康に配慮して随時面談を行い、セルフ方式のストレスチェックも行っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者のうち1名が成年後見制度を利用しており、制度について内容の把握に努めています。	入居者の一人が成年後見制度を利用し、司法書士の後見人が付いている。今後も制度を必要とする方の入居が見込まれている。権利擁護に関する制度の研修は予定していないが、資料・パンフレット等は窓口に備えており、求めがあれば提供できる。	認知症高齢者の権利擁護は社会的課題でもあり、益々ニーズが高まると予想されます。今後は専門家によるものも含めて制度の研修を行い、職員の理解を深められることを期待します。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項に基づいて説明を行い、不明な点は随時管理者や職員が対応し、理解と納得が得られるよう努めています。	事前の面談で説明した上で、契約時は重要文書等を読み上げ2時間位かけて説明をする。最期まで看てもらえるかとの質問には、事業所での介護・看護が難しくなった場合は医療機関や併設の介護老人保健施設に移れるよう支援することを説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を周知しています。また家族来所時や電話連絡時に家族からの要望等があれば事業所内会議で検討するよう努めています。	入居者からは生活の中でその都度、家族からは来所時や電話などで意見や要望を伺っている。コロナ禍で玄関のガラス戸越しとなっていた面会については、今年度から家族の要望を受けて玄関扉の両側にマイクを設置し、お互いの声が聞けるようにした。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の方針や日々の業務内容の取り決め等、職員で協議の上、決定しています。新規入居者の受け入れも、職員の意見を反映させています。	職員の意見は、月1回の職員会議や普段の会話などで積極的に出ている。消毒機能付きスリッパボックスや田植えの行事等も職員のアイデアである。今年度は職員の意見に基づき、入居申込者のホームでの生活が可能か否かを自宅へ伺って判断することにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けて支援を行い、意欲をもって従事できるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修への参加を計画し、外部研修として計画的に認知症実践者研修の受講を支援しています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区のグループホーム連絡会に参加し、他事業所との意見交換・情報交換によりサービス向上に取り組んでいます。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、本人の生活歴や家族の要望に耳を傾け、情報収集するとともに本人の思いを傾聴し、関係の構築に努めています。情報は職員間で共有しています。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期には情報が十分でないため、コミュニケーションをとりながら不安・心配を取り除くよう努めています。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員・主治医・併設施設の医師・看護師・相談員と連携し、適切なサービス利用に努めています。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個性を尊重し、できること・できないことを見極めながら、その人らしい生活が送れるよう支援し、「ともに楽しく」を心掛けています。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	意見や要望を拝聴し、適切なケアを目指しています。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人との面会を玄関のガラス越しで行っています。声が聴きとりにくいため、スピーカーを設置して対応しています。コロナ禍以前は、なじみのスーパーでの買い物等行っていましたが、現在は散歩や外出などを支援しています。	感染防止のため面会は玄関ガラス越しで予約制・2人までとしている。コロナ禍以前は馴染みの店などに職員や家族と出かけていたが、今は自粛している。花を見に行く地域の公園や、月2回訪れる訪問理美容師が新しい馴染みとなっている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士に相性の良し悪しがありますが、その人の個性を把握し、職員が介入しながら、入居者同士良い関係になるよう努めています。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから併設の施設に入所された方は、本人・家族にお会いした際はコミュニケーションを積極的にとっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の表情や言葉から常に本人の意向を感じ取り、精神的な負担にならないように入居者の思いを大切にしています。	利用開始時の聞き取りや日々のケアから、意向や思いを把握している。気付いたことはすぐに申し送りノートで共有し、必要時はミーティングで話し合いをしている。部屋担当は決まっているが、担当以外の気付きもあり、チームケアに努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常のコミュニケーションを大切にし、会話の中からこれまでの暮らしの把握に努めています。また、家族とのコミュニケーションも大切にし、情報収集に努めています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムを把握し、その人のペースで負担をかけないように声掛けし、柔軟に対応できるように努めています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画・モニタリングとも、計画作成担当者を中心に全職員・家族の意見を取り入れて、より良い計画の作成に努めています。	ケアマネージャーと担当職員が3か月ごとにモニタリングを行い、介護計画を作成している。また担当職員以外からの意見も取り入れ、様々な視点から捉えた計画になるよう工夫している。作成後は全員で共有し計画に沿ったケアを行うようにしている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録をはじめ、申し送りノートの記入により、小さな変化により早く気が付けるように努めています。気づきによって出る課題について常に話し合い、ケアに反映できるようにしています。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況を把握しながら、医療機関受診の同行を依頼したり、場合によって職員が援助しています。その時点でできる柔軟な対応を心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣大学の実習等の機会を利用し、職員以外とのコミュニケーションの場をつくるようにしています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師による居宅療養管理指導により月2回の往診を受けています。職員が日々の健康状態を細かく伝えるなど、適切な指導が受けられるよう努めています。	入居者全員が在宅支援診療所をかかりつけ医とし、月2回の往診がある。又、併設の介護老人保健施設から看護師が週3回健康管理に訪れ協力歯科の往診も適宜あり、医療との連携が取れている。家族が付添えない時には、受診支援ヘルパーも活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設との医療連携により、週3回の看護師訪問時に相談し、指示をいただき適切な受診等につなげています。また、緊急時の協力も得ています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を詳しく伝え、連絡・相談を密に行い、より良い関係づくりをしています。	入院時には介護サマリーを作成し情報提供を行っている。また、感染防止の為お見舞いが出来ないで、家族や病院との連絡で様子を伺っている。退院時、可能な場合はカンファレンスに参加しスムーズに利用再開していただけるよう対応している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできること、できないことについて理解いただき、利用者・家族の意向に沿いながら、定期的に話し合い、本人にとって適切な環境が提供できるよう、併設老健はじめ関係機関とも連携し、チームとして取り組んでいます。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明している。状態が低下してきた際は相談員より併設の介護老人保健施設や医療機関に移る提案を行ない、より良い生活やケアが出来るサービスに繋げている。今まで看取りをした事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設、また主治医との連絡体制を確立し、適切な対応ができるよう備えています。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練の実施と火災、地震を想定した避難マニュアルを策定しています。	併設の施設と合同で、年2回消防避難訓練を行っている。また、海が近い土地なので、津波発生時の避難場所の確認や、緊急時の他部署職員との連携手段なども想定している。災害時の食料・水の備蓄も施設全体で3日分の確保ができています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が常に意識し、一人ひとりの人格を尊重した対応を心掛けています。	入浴時や排泄の時から始めとして常に入居者のプライバシーと人格を尊重し、居室に入る際は本人が部屋に不在でも必ず了解を得てから入室するなど徹底している。不適切な言動だと感じた時は職員が声をかけあい、時には会議で共有や振り返りの場をもっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が難しい方に、その様子や行動の観察により、何がしたいのか、どこへ行きたいのか等の思いを把握できるよう注意深く見守りながらサポートしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常における決まった予定はありますが、希望に添えるよう臨機応変に対応し、本人のペースに合わせた暮らしを優先しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、自己選択を第一とし必要に応じて助言をするようにしています。身だしなみに関しても乱れているときは、プライバシーに配慮しながら援助しています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・下膳は可能な限り行っていただき、必要な時は援助しています。また、月2回は入居者の希望を伺い、お料理会を企画しています。スタッフを交えて楽しんでいただいています。	食材が業者から併設施設の厨房に届き、そこで調理したものが届いた後、入居者と一緒に配膳している。また月に2回は希望のメニューでの昼食会やおやつの会を行なう。包丁を握る方もいて、皆さん手際良く調理され、作る喜びもあり、とても好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を日々記録し把握しています。食事摂取量が少ない時は体調の変化を観察し、必要時食べやすいものへの変更を行っています。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々にあった介助方法で対応しています。また、希望者は訪問歯科を利用して、週1回歯科衛生士による口腔ケアを施行しています。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄状況を記録し、観察しています。職員間で密な意見交換をし、適切な支援ができるよう努めています。	排泄表で利用者のタイミングなどを見計らって、トイレ誘導を行っている。またご自分で行ける方に対しても、さりげなく支援するなど配慮している。夜間の排泄も、離床センサーやポータブルトイレなども使い、その方の状態に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日ごろから利用者個々の排便の状態を観察し、主治医の助言を受けながら適切な対応を検討しています。また、体操・レク等で活動量を増やしています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴日をとっていますが、その時の状況や状態に合わせて時間や曜日を変更して入浴をいただいています。	週2回の入浴以外にも、寒い時期は足浴をしてから入眠するなど工夫している。浴槽は大きく槽内の段を下りて浸かるため、身体状況に合わせてシャワー浴で済ます方もいる。ゆず湯やしょうぶ湯、時には入浴剤を入れ、心身共に楽しんでもらえる場になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日課は適宜声掛けしますが、個々の状態や状況に応じて、その方のペースで休息をとっていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し、服用されている薬剤の把握を全職員が確認できるようにしています。また、居宅療養管理指導により状態の変化に合わせて処方を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しめるレクリエーションや行事を季節や利用者の状態に応じて行っています。		



自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で感染予防のため外出は控えていましたが、今年5月ぐらいからドライブや事業所前の公園の散歩等、外出の機会を広げています。	施設の前にある大きな公園と、周りの木々や花に囲まれ、季節の移り変わりを感じる事ができる環境である。感染防止のため、今はホテルでのお茶会や外食などは控えているが、密にならない場所へのドライブやお花見など、外出する機会を増やしている。	コロナ禍以前は、ホテルでお茶会や外食など、非日常を味わう日もありましたが、現在は実施出来ていません。コロナの状況や感染対策も考えながら、再開を検討されることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として事務所で個別に管理し、希望に応じてお金が使えるよう援助しています。金銭の取扱い時は、家族へ連絡の上、預り金台帳で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、事業所内の電話で家族や友人と話ができる支援をしています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や季節感のある飾りつけを作成し、事業所内に飾っています。集団とプライバシーともに大切に、利用者が生活しやすい空間づくりに努めています。	壁面には、季節の装飾や行事の写真などを飾り、毎月更新している。面会場所にも作品を飾り、家族に見てもらおう工夫をしている。テーブルで洗濯物を畳んだり、できる作業をするなど、思い思いに過ごしている。こまめに換気し感染対策を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トイレや部屋等がわかりやすいように貼り紙をして迷いなく生活していただけるように配慮しています。テーブルのレイアウトも定期的に変更し、ひとりでも大人数でもくつろげる空間づくりをしています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのあるものや思い出のある品々を持ち込んでいただき、個人に合わせた環境づくりを心掛けています。	居室の窓は安全のため全開することは出来ないが、木々や青空が見え、季節の移り変わりを感じられる。またタンス、洗面台、ベッドが備えつけてあり、テレビや椅子、寝具など必要なものが持ち込まれ、ゆっくりと過ごせる環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者それぞれの身体機能に添った援助をしています。日常生活において、入居者が心身ともに負担のないよう心掛けています。日々、変化のある高齢者のため、職員間での情報交換を密に行うよう努めています。		